

議会改革特別委員会視察研修報告

葛 城 市 議 会
議会改革特別委員会

<日 程> 2023 年（令和 5 年）10 月 27 日(金)

<研修先> 1 ヶ所目：大阪府泉南郡熊取町議会
2 ヶ所目：大阪府阪南市議会

<参加者> 議会改革特別委員会委員 9 名
西川善浩 委員長 柴田三乃 副委員長
杉本訓規 委員 吉村 始 委員
奥本佳史 委員 松林謙司 委員
川村優子 委員 増田順弘 委員
西井 覚 委員

委員外議員 5 名
梨本洪珪 議長
横井晶行 議員 坂本剛司 議員
藤井本浩 議員 下村正樹 議員

<随行者> 議会事務局
板橋行則 議会事務局長 新澤明子 議会事務局総務課長

大阪府泉南郡熊取町議会

<熊取町及び町議会の概要>

熊取町は大阪都心部から 30 キロメートルの距離で、大阪府の南部・泉南郡にあって関西国際空港のある泉佐野市の東隣に位置している。

昭和 60 年以降に関西鍼灸短期大学（現関西医療大学）や大阪明浄女子短期大学（現大阪観光大学）、大阪体育大学が相次いで開校し、泉州地域で屈指の学園文化都市となった。

- ・町制施行年月日 昭和 26 年 11 月 3 日
- ・人 口（令和 5 年 3 月末日現在） 42,903 人
- ・世帯数（令和 5 年 3 月末日現在） 18,647 世帯
- ・面 積 17.24 km²
- ・令和 5 年度一般会計当初予算額 15,543,165 千円
- ・議員数 14 名

・年齢別議員数

年 齢	30~39	40~49	50~59	60~69	70 歳以上
人 数	0 人	4 人	4 人	6 人	0 人

・委員会数 2 常任委員会、議会運営委員会、5 特別委員会

<会 場> 熊取町議場内

<説明者> 熊取町議会総務文教常任委員長 文野慎治様

熊取町議会議員 大林隆昭様

議会事務局長 林 利秀様

議会総務課長補佐兼議会総務グループ長 阪上高寛様

◆ 研修内容 ◆

「議会タブレット端末等の導入について」

■熊取町議会のタブレット端末等の導入状況について（基本事項の説明）

1. 導入経緯

令和元年9月定例会において、委員7名による「議会改革検討特別委員会」を設置。目的としては、議会機能の強化、効率的な議事運営の推進に努め、より一層開かれた議会を目指すための調査、検討を行う。その調査項目のひとつとしてタブレット端末導入による議会ペーパーレス化を調査することが決まった。

以降、行政視察の実施やペーパーレス会議システムのデモ操作説明会を行い、令和2年2月27日の特別委員会にて全会一致でタブレット端末の導入を決定した。

2. 活用状況

1) 令和2年11月に導入、12月定例会から運用開始

→他の機関から通知文などを除き、完全ペーパーレス化を即時実現

- ・タブレット端末は、iosのセキュリティの高さ、どこでも使用可能な利便性等から **iPad Pro 12.9 インチ** (Wi-Fi + cellular モデル) を採用。
- ・ソフトウェアのペーパーレス会議システムは、操作方法の容易性や多彩な検索機能、全国的に多くの導入実績がある **SideBooks** を採用。

2) 現状の活用

→各種会議の開催時にはタブレットのみで資料すべてが閲覧可能に

→いつでもどこでも議会資料の確認が可能に

- ・会議に関する各種資料の保管・閲覧。
- ・会議通知、執行部からの案内、提供資料の保管・閲覧。

- ・会議録や行政計画の保管・閲覧。
- ・メモ機能を活用しての資料への書き込み。
- ・会議に必要な情報の収集。(タブレット端末による Web 検索)
- ・LINEWORKS アプリを導入しての、災害時や平常時における議員間や事務局との連絡や会議等の日程調整や出欠確認のとりまとめ。

3) 導入及び運用に関する費用

- ・タブレット (17 台)、アップルペンシル (17 本)、docomo 初期設定費、SideBooks 初期設定費、SideBooks 講習関連費

合計 約 60 万円

- ・docomo 通信料、docomo 運用保守費、SideBooks 利用料

合計 約 230 万円/年

3. 今後の検討課題

更なるタブレット端末、ペーパーレス会議システムの活用を進めていく為には活用する人間のスキルアップが必要。

また、費用に関してはタブレット端末の更新やペーパーレス会議システムの更新、更には毎年のランニングコストに対しての課題がある。

■主な質問と回答

Q 議会 ICT 化 (タブレット端末等の導入) を実施したことによる一番の効果は。

A タブレットもしくは、携帯にアプリ (SideBooks) をインストールすれば、過去の議案書など、いつ、どこでも閲覧可能。

Q 議会 ICT 化 (タブレット端末等の導入) を実施したことで、本会議や委員会においての会議時間の短縮やそれに係る準備等の効率化に繋がっているか。

A 会議時間の長さには特に影響はないが、議案書や資料の印刷や編冊、配布、議案書等の修正が発生した場合の差し替え作業の労務作業が大幅に減少。

Q タブレット端末については、議員に譲渡または貸与されていると思うが、議員個人の端末を使用されているケースはあるか。

A タブレット端末は、現在、議員に貸与しているが、本会議、委員会中に個人の端末を使用している議員はいない。その他の議員活動においては、スマートフォン、自宅パソコンなどに、SideBooks や LINEWORKS をインストールし、ID とパスワードでログインすることで、使用可能となるため、その場合は個人の端末を利用している。

Q タブレット端末 (iPad Pro) を採用された経緯と採用方法についてご教示願う。

A アップル社の OS は、セキュリティが高いと評判であったことから、セキュリティ面を重視して、iPad を採用した。採用方法であるが、指名競争入札で不調となったことから、プロポーザル方式で、再度業者を選定した。

Q 本システム (SideBooks) を採用された経緯と採用方法についてご教示願う。

A 当時、全国No.1 のシェアであったこと。メモ機能や複数のウィンドウを開けることが可能で、会議時においても、該当する議案書をお知らせ機能により、全議員に通知できることから採用。プロポーザル方式にて業者を選定した。

Q 通信方法については、SIM カードを採用されているが、採用された経緯や契約方法についてご教示願う。また、議員の料金負担はどのようになっているか？

A 議員活動全般に使用することを目的として、Wi-Fi 環境のないところでも使用できるように cellular モデルを採用した。また、議場において議員サイドの Wi-Fi 環境が整っていないという理由もある。契約方法については、3年間の債務負担行為 (長期継続) により契約を行った。料金負担については、基本使用料を超えなければ議員負担はない。

Q 本システムは理事者と共有されている部分と議員のみが利用できる部分とに大別して運用されているか。

A 各フォルダーで、利用 (閲覧) 権限を持たせることができるため、大別している。共有フォルダーには、議会や委員会の資料などを掲載。議員専用については、執行部からの議員への案内や通知文の他、議員個々のフォルダーには、報酬明細なども掲載している。

Q 現時点では、全議員が議会 ICT 化に取り残されることなく進められているか。

A 全議員が特に問題なく使用できている。

Q 移行期間などフォロー体制についてはどのようにされたか。

A タブレット端末導入時に、業者からの研修を受講。改選により議員交代後は、職員が研修を行っている。

Q タブレット端末 (iPad Pro) によるオンライン会議等は開催されているか。

A 正式な会議でのオンライン会議は行っていないが、令和3年度の防災訓練にて実施。

Q 条例等の法令整備についてご教示願う。

A 熊取町議会タブレット端末使用基準を策定。

Q 今後、更新時に改善すべき課題等あればご教示願う。

A 機種を選定をはじめ、ペーパーレス会議システムの再検討。

■委員所感（委員外議員含む）

○熊取町議会におけるタブレット端末導入の最大の成果は、議会事務局の事務作業量の削減、議員サイドにおける配布資料の削減、そしてペーパーレス化による経費の節減であり、導入の主目的を「議会のペーパーレス化」に定めている点が参考になった。

○SideBooks の機能（通知機能）について質問したが、議員側の運用（使い方）を工夫することで、一般質問の可能性を高めることができると実感した。

○導入と同時に完全にペーパーレスに移行されたが、特に問題なく議員全員が適応されているのに少々驚いた。また事務局の負担も軽減されたということで、そういった点からも私たちも積極的に導入を進めることができると考える。cellular モデルを採用されているが、今までに容量を超えた議員の方はいないということで、議会以外ではあまり使用されていないという印象があった。

○完全ペーパーレス化というのは理想ではあるけれども、万人にとっては使い勝手が良いものではないのではないかとこの予断を持って研修に臨んだ。しかし、熊取町の実例を知り、そのような懸念が払拭され、「紙の資料の保管と整理地獄」から解放される！と大きな希望が変わった。

○会議で使用する各種資料、会議通知、会議録や行政計画等、全て PDF 化で SideBooks へ。又、過去に紙や冊子で配布した資料等も可能な限り SideBooks へ入れ、保管、閲覧が可能であり、議会のペーパーレス化に大変役立つと感じた。

○タブレット端末の導入に対してその取扱いに慣れれば多様なメリットが期待できると思う。例えば、遠隔会議の開催(テレワーク)、ペーパーレスによる用紙代、消耗品代の削減、人件費の削減など、その費用対効果も大いに期待できると感じた。

○議員が各種会議において、タブレット端末のみで資料のすべてが閲覧できることは、ペーパーレスだけでなく、議員の資料や会議録、各種行政計画書、また Web 検索などもコンパクトに持ち運びが可能で、議会活動や議員活動が効率的に可能になる。

事務局の業務については、これまで以上の事務処理が増えるであろうと想像していたが、事務局と議員間の連絡方法なども導入後は負担が減ると聞き、驚いている。

導入費用やランニングコストは思いのほか安価であり、葛城市も一日も早く導入すべきであると感じた。‘案ずるより産むが易し’である。

ただし、一点だけ気にかかったことは、議会インターネット中継に、また傍聴者に対し、資料などを公開できにくいところが、検討部分であるので、葛城市としては研究すべき点である。

○タブレット導入に関しては、特に資料が膨大な議会においては早急に導入を進めるべきと感じた。なお使用方法に不安を感じる議員においても早く慣れていただくしかない。また、導入に当たっては費用対効果（ペーパーレス化）の試算が重要と思われる。

○総合的に見て実に合理的なシステムと考察された。

○熊取町議会議員が現在使用している端末（iPad Pro）を使用して、9月議会で審議された議案や予算の資料を用いてご説明いただいたので、葛城市議会で導入した場合のイメージが掴めた。実際のPDF資料には書き込みがあり、アップルペンシルを使うことで紙と同じ使用法が可能であることや、議員から議場での使用感などの説明もあり、不明な点も解消された。

特に、一つのアカウントを複数の端末で操作できることが分かり、資料作成や検索をする場合に便利であると感じた。また、LINEWORKSを使った議員間の連絡網は、緊急時にはとても役立つと思った。

今回視察させていただいた熊取町議会ではcellularモデルで導入されていたが、葛城市議会は5階のWi-Fi環境がある程度整備されていることから、個人的にはWi-Fiモデルで十分であると考えます。いずれにせよ、議会の機能向上においてタブレット端末の導入は、大変有効であることが理解できました。

■視察研修状況



大阪府阪南市議会

<阪南市及び市議会の概要>

阪南市は、北を大阪湾に面し、南を和泉山脈と接している。和泉山脈から流れ出る河川が形成した平野部が古くから生活の場となっている。大阪府内において一番新しい市であり大阪府内において一番南の市に位置している。

また、SDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けて優れた取組を提案する都市として、令和4年5月20日付けで内閣府から「SDGs 未来都市」に選定されるとともに、特に先導的な取組である「自治体 SDGs モデル事業」にもダブルで選定されている。

- ・市制施行年月日 平成3年10月1日
- ・人口（令和5年9月末日現在） 50,934人
- ・世帯数（令和5年9月末日現在） 24,150世帯
- ・面積 36.17 km²
- ・令和5年度一般会計当初予算額 19,335,000千円
- ・議員数 14名
- ・年齢別議員数

年齢	30~39	40~49	50~59	60~69	70歳以上
人数	0人	2人	6人	3人	3人

- ・委員会数 2 常任委員会、議会運営委員会、議会広報編集委員会

<会場> 阪南市議会

<説明者> 阪南市議会議長 畑中譲様
議会事務局長 井上稔様
議会事務局庶務課長 布施秀樹様

◆ 研修内容 ◆

「議会タブレット端末等の導入について」

■ 阪南市議会のタブレット端末等の導入状況について（基本事項の説明）

1. 導入経緯

令和2年8月に、第1回議会改革推進検討会を開催した。目的としては、ペーパーレス化の推進に取り組むことにより、迅速な情報提供、議会運営の活性化並びに業務の効率化に資するため、議会における本会議、常任委員会、特別委員会等の会議においてタブレット端末を導入する。

以降、数回に及ぶ議会改革推進検討会の開催により、タブレット端末の機種選定

やファイル共有会議システムのデモンストレーションの実施を行い、令和2年12月の第5回議会改革推進検討会にて、議会タブレット端末の仕様及びファイル共有会議システムの導入が決定。

2. 活用状況

1) 令和3年6月に導入、6月定例会から運用開始

- 令和3年10月の第2回臨時会閉会をもって、議会資料については紙との併用を終了。12月定例会より完全ペーパーレス化に移行した。
- ・タブレット端末は、iosのセキュリティの高さ、画面が大きく資料が見やすいことから **iPad Pro 12.9 インチ** (Wi-Fi モデル 128GB) を採用。
- ・ソフトウェアのペーパーレス会議システムは、全国で100自治体以上の実績があること、膨大な資料から素早く検索ができること、他のパソコン・タブレット・スマートフォンで閲覧可能などから **SideBooks** を採用。

2) 現状の活用

- 全議員での情報の共有化、通知の迅速化、議員活動の充実、資料の見易さ、紙にかかる経費の削減。
- 理事者と議案資料を共有できる、緊急性の高い情報（災害等）を迅速に共有できる。
- ・委員会等開催通知、一般質問通告書、発言通告書や本会議招集通知などの各種通知。
- ・議場配布資料、議案書、予算・決算書など本会議・委員会等の議会関係資料の保管・閲覧。
- ・各種行政計画、理事者からの情報提供、会議録などの保管・閲覧。

3) 導入及び運用に関する費用

- ・タブレット（議員・理事者・議会事務局用 33台）、アップルペンシル、アップルマジックキーボード、プリンター用無線機器、クラウド文書共有システム初期設定、庁内Wi-Fi環境構築

合計 13,384 千円

- ・クラウド文書共有システム利用料、サークルスクエアオプション、Office365ライセンス（33ライセンス）

合計 1,406 千円/年

3. 今後の検討課題

理事者側との管理体制の構築、タブレット端末更新に際しての仕様検討、本会議がオンラインになった際の対応に対しての課題がある。

■主な質問と回答

- Q 議会 ICT 化（タブレット端末等の導入）を実施したことによる一番の効果は。
- A 全議員への情報の共有化が迅速に行えること。その他に、議員活動の充実につながる。資料検索が容易に行える。資料（写真等）がカラーで確認できる。用紙代・印刷代の経費削減が図れる。
- Q 議会 ICT 化（タブレット端末等の導入）を実施したことで、本会議や委員会においての会議時間の短縮やそれに係る準備等の効率化に繋がっているか。
- A 議案発送の準備や差し替え資料もファイルにて行えるようになったため、会議等の準備に関して効率化に繋がっている。
- Q タブレット端末については、議員に譲渡または貸与されていると思うが、議員個人の端末を使用されているケースはあるか。
- A 一人のみ以前から使用されている個人のパソコンを使われている。
- Q タブレット端末（iPad Pro）を採用された経緯と採用方法についてご教示願う。
- A 他団体での導入実績も多く、OS はサンドボックス構造でウイルス感染しにくいと、セキュリティ面も考慮した。また、指名競争入札を実施したが不調であったので、公募型プロポーザル方式による随意契約とした。
- Q 本システム（SideBooks）を採用された経緯と採用方法についてご教示願う。
- A デモンストレーション時の操作性が良く、ユーザー管理やデータ管理の容易性が良かった。公募型プロポーザル方式による随意契約とした。
- Q 通信方法については、Wi-Fi 環境を採用されているが、採用された経緯や契約方法についてご教示願う。また、Wi-Fi 環境については、どのように整備されたか。
- A Wi-Fi モデルであっても、議員個人のスマホ等からテザリングでネットに接続すべしとの意見があった。Wi-Fi 環境の整備については、本庁舎・議会棟ともに 24 時間 Wi-Fi 対応とした。
- Q 本システムは理事者と共有されている部分と議員のみが利用できる部分とに大別して運用されているか。

A 議員と理事者の閲覧できるフォルダを分けて運用している。その他、理事者側では17の会議にも使用したり、泉州南広域消防組合議会での活用も行っている。

Q 現時点では、全議員が議会 ICT 化に取り残されることなく進められているか。

A 想定していたよりも、議員のスキルアップが早く、現時点では誰も取り残されることなく運用している。

Q 移行期間などフォロー体制についてはどのようにされたか。

A 完全デジタルまで、期限を切って紙を併用した移行期間を設けた。

Q タブレット端末 (iPad Pro) によるオンライン会議等は開催されているか。

A 開催したことはない。まずは、委員会以外の連絡会のような会議から実施したい。

Q 条例等の法令整備についてご教示願う。

A 「阪南市議会委員会条例」、「阪南市議会会議規則」、「阪南市タブレット型端末機器使用基準」、「阪南市本庁舎及び別棟無線 LAN 管理規約」の条例等整備を行った。

Q 今後、更新時に改善すべき課題等あればご教示願う。

A 機種を選定については、より一層の議員活動の充実を図るため cellular モデルが良いのではとの意見もある。また、現状は理事者側のタブレット端末やペーパーレス会議システムの管理においても議会事務局が行っているため、理事者側と協議し、管理体制の構築が必要である。

■委員所感 (委員外議員含む)

○質疑で強調されていた「後々の管理&運用コスト面を考えると、端末は cellular モデルにすべき」という説明は、実際に導入された団体の生の声として非常に参考になった。

○SideBooks に格納する過去のデータの取り扱いについて質問したが、タブレット導入以前のデータは格納していないとのことだった。参照頻度の低いデータはクラウドサーバー容量の浪費に繋がるが、過去データをどこまで線引きするかの検討は必要だと考える。

○地方創生臨時交付金を活用して導入されたということで羨ましい限りだが、年間174時間の職員の時間が削減されたとのことなので、ペーパーレス化と合わせて、長期的に見れば経費をかなり削減できると考えれば、単費で導入したとしてもメリットは大きいと考える。Wi-Fi モデルを採用されているが、更新時には cellular モデルに変更

を検討されているとのこと。導入後のペーパーレス移行もスムーズで問題がないとのことで、議員の足並みは揃うのではないかと考える。端末やシステム導入の際の入札で、少々困られた話も参考になった。阪南市は連絡ツールにサークルスクエアを導入されている。様々な共有ツールがあるので慎重に検討する必要があると考える。

- リアルタイムに情報が入ってくるのは、実に最新版管理がし易いので ISO 的である。
- 紙からタブレットに変わることは、慣れの問題が大きいことを実感した。紙の資料に埋もれて整理に苦しんでいる身として、希望となる研修であった。
- 令和 3 年 6 月議会から SideBooks を使用し、当初は紙と併用されていたとのこと、慣れるまでは紙と併用するのが良いのかなとも感じた。Wi-Fi + cellular モデルが、導入効果としての活用の幅が広くなり良いのではないかと感じた。
- タブレット端末の導入当初は、その取扱いに慣れるまで多少の不便さや戸惑いがあるかも知れないが、その取り扱いに慣れると、メリットの方が大きいと感じた。議員活動の充実(膨大な資料の携行・保管)阪南市では、人件費削減効果や印刷製本費削減など経費削減効果額は 960,740 円/年となっている。葛城市においてもタブレット端末に対する効果は大いに期待できると感じた。
- 議長の率直な意見としては、すべての議員がスムーズな運用ができているとは思えなかったが、資料を見るという点においては問題ないように思えた。紙とタブレットの違いは複数の資料を比較する場面で問題があるように推測する。
- 導入の経緯などを事細かにご説明いただき、議会改革推進検討会の設置からモデル決定、入札、導入までのご苦勞が伝わった。導入後についても、コピー用紙代や人件費の削減金額などをお示しいただけたことで、具体的な削減効果が理解できた。
タブレット端末の導入後は期限を区切って紙の資料との併用を終了しておられることから、葛城市議会で導入する際にも、強い覚悟を持って完全ペーパーレス化に移行する必要性を感じた。また、事務局職員の ICT 技術が高いことは伺えたが、実際に議員が会議で使いこなすには、導入時だけでなく継続的な研修が必要であると考え。事務局からは「現在は Wi-Fi モデルを使用しているが、次回は必ず cellular モデルを導入したい」と説明を受けたが、議員からは Wi-Fi モデルに関する不満や使い勝手の悪さなどの申し出は無いとのことであり、事務局側での課題解決の部分が大きいように思う。

■視察研修状況



■■委員長所感■■

議会タブレット端末導入及びペーパーレス会議システム導入の効果として、議会運営の効率化、議員活動の充実、議会資料などのペーパーレス化については、両議会ともにほぼ達成をされていると感じた。

また、両議会ともにタブレットを導入してから大きなトラブルもなく運用をされており、移行にあっても比較的スムーズに行われた。熊取町議会にあっては、移行期間（紙資料との併用）を設けることなく、令和2年12月定例会より即時ペーパーレス化を行われた。このことを受けて、本市へ導入する際、移行については必ず移行期を設ける必要もなく、即時ペーパーレス化を行うことも可能であると認識した。

次に、タブレット端末とペーパーレス会議システムの選定についてであるが、タブレット端末に関しては、両議会ともにセキュリティ面で優れていることや操作の容易性、画面の見易さなどから iPad Pro12.9 インチを採用されており、選定する際の参考になった。

また、熊取町議会での研修の際には、実際に議員が使用しているタブレットを使いデモンストレーションを行っていただき、体感することができた。タブレット端末の通信方法であるが、熊取町議会は Wi-Fi + cellular モデル、阪南市議会にあっては Wi-Fi モデルと異なるが、両議会とも現状においては問題なく使用できているとのことであった。ただし、阪南市議会では、タブレット端末の更新時期の際には、議員の政務活動の幅が広がる Wi-Fi + cellular モデルでの活用を検討したいとのことであった。本市において選定する際には、通信費や議員活動の効果を鑑みて選定を行うことが必要である。ペーパーレス会議システムに関しては、両議会ともに、全国的に自治体への導入実績が圧倒的に多いことや、メモ機能があること、資料の検索が容易なこと、自身のパソコン・タブレット・スマートフォンで閲覧可能なことから SideBooks を採用されている。そして、何より両議会とも、議会だけでなく執行部と共にこのペーパーレス会議システムを導入することで、より一層

ペーパーレス化に取り組むことができていると実感した。葛城市においても、令和5年3月に策定された「葛城市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）」に基づくゼロカーボンを見据えた取組の一つとして、用紙使用量の削減に非常に有効的だと考える。

以上のことから、両議会への視察研修を受け、今後、議会改革特別委員会として、タブレット端末導入などの議会 ICT 化に向けて取り組むべき事項が明確になった。

- ① タブレット端末等、ペーパーレス会議システム運用にあたってのルール策定
- ② タブレット端末等、ペーパーレス会議システムの仕様検討
- ③ 導入する際の、契約及び発注方式

以上の事項を、引き続き検討項目として掲げ、予定通り令和6年度導入に向けて進めるべきであると申し上げて委員長所感とする。

最後に、熊取町議会・阪南市議会には、ご多忙の中、懇切丁寧にご対応頂きましたこと、本当に有難うございました。本視察研修を糧にし、葛城市議会の更なる質の向上を実現して参ります。